

別紙 2

教職員の時間外在校等時間縮減に効果の高い学校の取組状況調査表

市町村名・学校名	鹿嶋市立三笠小学校
----------	-----------

1 時間外在校等時間の状況（教職員の平均値）

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
小学校	23:28	22:17	35:04	40:04	36:30	43:47	29:08
中学校							

2 学校が主体的に実施する効果が高い取組の概要

【学校業務の削減・縮減に関する取組】

- ・諸会議のペーパーレス化
- ・企画会と学年会の充実による職員会議の削減（4月から）
- ・Google Formを活用した各種アンケートの実施
（学校評価、学校生活アンケート、いじめアンケート等）
- ・看護日誌コメントの簡素化
- ・PTA活動の見直し及び削減（ベルマーク活動、PTA広報紙の廃止等）
- ・専科教員、T T、A T、スクール・サポート・スタッフ（S S S）、学校サポーターの活用による、担任等の業務削減
 - 英語専科 → 1～4学年は週1時間、5～6学年は週2時間の授業をT1として指導
 - T T → 児童のサポート、丸付け、填補など
 - A T → 児童のサポート、教材作成、印刷、丸付けなど
 - S S S → 印刷、綴じ込み、電話対応、営繕など
 - 学校サポーター → 清掃・消毒、印刷、保健室対応など
- ・chromebook等を活用した教材教具（ワークシートや教材）の共有による作成時間削減
- ・運動会や持久走大会をブロックごとの実施とすることによる授業確保及び業務削減
 - 運動会…事前練習：30時間→10時間 当日：6時間→3時間
 - 持久走…当日：4時間→2時間
- ・毎週水曜日、昼休みと清掃時間を削減し、児童の下校時刻を30分早めることで、教職員の事務処理時間の確保
- ・教頭、教務主任、事務職員間で、学校運営簿（出張者、休暇取得者、行事予定等を一つのExcelシートにしたもの）の共同編集
 - 毎日の学校日誌を手書きからプリンター出力にしたことで、教頭の業務削減となった
- ・LEBERを活用した毎日の健康観察や欠席連絡（朝の電話対応業務削減）
 - 4月から導入 一人10円／月の費用は保護者負担
 - 保護者が「体温」と「欠席」（欠席する場合は理由）を記入し送信
 - 連絡のない家庭には、生徒指導主事や教頭等が確認する
 - 欠席者には担任が放課後に電話連絡する

【教職員の意識改革に関する取組】

- ・働き方改革推進委員会メンバーに若手教職員を入れることでの意識高揚
 - 時間外勤務の多い若手職員の当事者意識が高まり、変容が見られた
- ・学年ごとに月3～4回の定時退勤予定日の設定と確実な実施【別添資料参考】
 - 月初めに各自、退勤日を設定し、当日は「本日の定時退勤者」を見える化する
- ・月ごとに各個人の勤務時間集計表を配付することによる、勤務状況の意識化
 - 毎月の時間外勤務時間一覧を個人ごとに作成し、個別に確認してもらう（月半ばに各自の状況を伝えることで、意識が更に高まる）
 - 特に45時間以上の教職員に対しては管理職が声かけをし、翌月の状況を注視する
- ・教員評価の自己申告書を活用した各自の時間外勤務に関する目標設定と定期的な確認
 - 面談の際に確認するとともに、時間外勤務の多い職員に対しては助言指導する

【その他時間外の原因分析・解消に関する取組】

- ・一部の若手職員の時間外超過勤務が多い
 - 家庭を持たない若手職員同士で、時間を気にせず教材準備などを行っている職員がいる
 - 学年や全職員で声をかけるとともに、管理職がタイムマネジメントなど自己管理能力の大切さを指導する
- ・勤務時間外の保護者等からの電話連絡への対応
 - 児童完全下校後2時間以降は電話対応しない（保護者も理解し、特に問題ない）
 - 留守番電話設置については、市が現在検討中